

都市型脱炭素の先進モデルとして評価！

川崎市が第2回「市民が選ぶ！カーボンゼロカル大賞」を受賞しました

太陽光発電設備の設置義務制度、再エネの地産地消、中小企業の脱炭素経営支援などを総合的に評価

10月28日（水）に開催された「市民が選ぶ！カーボンゼロカル大賞実行委員会」が主催する脱炭素化に向けた自治体の優れた取組を表彰する第2回「市民が選ぶ！カーボンゼロカル大賞」表彰式において、川崎市が「都道府県・政令指定都市部門」で表彰されました。

本市は、新築建築物への太陽光発電設備の設置義務化、地域エネルギー会社「川崎未来エナジー株式会社」を通じた再生可能エネルギーの地産地消、金融機関と連携した中小企業の省エネ・脱炭素経営支援など、制度・事業・資金の多方面から脱炭素化を推進する取組が「都市型脱炭素の先進モデル」として高く評価され、今回の受賞となりました。

1. 「市民が選ぶ！カーボンゼロカル大賞」表彰式概要

- (1) 日時： 令和8年10月28日（水）14:00～16:00
- (2) 会場： ビジョンセンター新橋（東京都千代田区内幸町1丁目5-2 内幸町平和ビル17F）
- (3) 主催： 市民が選ぶ！カーボンゼロカル大賞実行委員会
(グリーンピース・ジャパン、環境エネルギー政策研究所、POW JAPAN)
- (4) 表彰式に関する問合せ先：
カーボンゼロカル大賞事務局 国際環境 NGO グリーンピース・ジャパン
広報 佐藤果穂子・鈴木かずえ Email: kouhou@greenpeace.org TEL: 080-3017-0046



表彰状授与の様子



授与された表彰状



事例発表の様子

2. 川崎市が評価された主なポイント

川崎市の制度・事業・資金の三方向から一体的に都市の脱炭素化を加速させる次の取組が、「都市型脱炭素の先進的なモデル」として評価されました。

① 新築建築物への太陽光発電設備の設置義務化

大規模建築物や戸建住宅の新築時の太陽光発電設備の設置義務化を実施し、先進的な取組として他の自治体への波及効果が期待されている点。

② 地域エネルギー会社「川崎未来エナジー株式会社」等による再エネの地産地消

本市が過半出資する「川崎未来エナジー株式会社」の設立や、学校への太陽光発電設備の設置などを通じて、市内で生み出した再生可能エネルギーを地域で活用する取組を進めている点。

③ 金融機関と連携した中小企業の脱炭素化支援

「SDGs・脱炭素化取組支援融資」※などにより、中小企業の省エネ投資を手続・資金面から後押しするとともに、川崎市脱炭素経営支援コンソーシアムを通じて金融機関と連携し、補助金にとどまらない幅広い支援を展開している点。

※SDGs・脱炭素化取組支援融資…SDGsと脱炭素化の対象事業の認証等を取り、対象資金を利用する場合に、保証料補助を追加で補助する制度

3. 市民が選ぶ！カーボンゼロカル大賞について



市民が選ぶ！

カーボンゼロカル大賞

環境団体やシンクタンクなど3団体でつくる「市民が選ぶ！カーボンゼロカル大賞実行委員会」（事務局：国際環境 NGO グリーンピース・ジャパン）が実施している表彰で、二酸化炭素排出削減などの単なる数値目標の達成にとどまらず、地域の脱炭素化と住民の健康・快適・安心のための優れた施策に取り組む自治体を表彰し、他自治体への波及を促すことを目的としています。第2回となる今年度は、都道府県/政令指定都市部門で東京都、川崎市、北九州市、基礎自治体部門で杉並区、釧路町の計5団体が表彰されました。

選考委員（敬称略）

- ・ 藤野 純一（公益財団法人 地球環境戦略研究機関（IGES）上席研究員）審査委員長
- ・ 飯田 哲也（環境エネルギー政策研究所 所長）
- ・ 前 真之（東京大学大学院 准教授）
- ・ 歌川 学（産業技術総合研究所）
- ・ 明日香 壽川（東北大学 特任（客員）教授・名誉教授）
- ・ 吉高 まり（一般社団法人パーチュデザイン 代表理事）
- ・ 武井 七海（POW Japan ディレクター）
- ・ 鈴木 かずえ（国際環境 NGO グリーンピース・ジャパン 気候変動・エネルギー担当）

問合せ先

川崎市環境局脱炭素戦略推進室 高橋

電話 044-200-2364

内線 29202